

## 「社会調査実習」担当教員

教員名： 黒田浩一郎

### 授業の進め方

夏休みまでは、各自の研究サブ・テーマの設定、既存研究・調査の収集と検討、調査課題と調査方法の決定、予備調査と調査計画の策定を行います。夏休み・後期はデータの収集、収集したデータの整理と分析、そして最後に調査レポート作成があります。

### 調査テーマ、調査実習地、分析方法など

このクラスの全体の研究テーマは「現代日本における若者の食と嗜好品」としたいと思います。受講生各自は、このテーマに含まれるような、各自のサブ・テーマを設定することになります。たとえば、健康のために食事に気を配っているか、気を配っていると、どのような点に注意しているか；ダイエットをしているか、しているとして、どの程度、どのような方法でか；「気分」を高めたり、鎮めたりするために、どのような嗜好品（スナック、タバコ、酒など）をどの程度、摂っているかなどです。食の好み、食と食事をめぐる思い出、などもサブ・テーマになり得ます。

調査実習地については、上記の研究テーマおよび以下の調査方法を考慮して、特定の地域に短期間滞在して調査を行うことはせず、龍谷大学生を対象に、瀬田学舎内で調査する予定です。ただし、質問紙（アンケート）の作成、アンケートデータ分析のための統計ソフトの使い方講習は、夏期休暇中に合宿形式で行う予定です。

分析方法（というか調査方法）としては、龍谷大学社会学部社会学科生に対する質問紙（アンケート）調査を行う予定です。他に、必要に応じて、面接調査、既存統計資料の2次分析などを行うこともあります。

教員名： 津島 昌弘

#### **授業の進め方**

実地調査にむけての基礎文献の購読と調査後のデータ処理は演習形式で行い、調査と報告書はグループワークをまじえながら実習していきます。ただし、報告書の個人分担(8千字~1万字)は一人で執筆することになります。合宿は2~3回行います。

#### **調査テーマ、調査実習地、分析方法など**

共通の調査テーマは「現代の若者と大学(仮題)」。メンバーは興味のある関連テーマ(例:教員や授業のあり方、キャリア教育や就職支援、サークルなどの課外活動、未成年の飲酒や喫煙、セクハラ、学業とバイト、こころの問題など)を選びます。調査は、調査票、いわゆるアンケートを主体とした実態調査(簡単な統計分析)を考えています。

実習地は主に龍大キャンパスになりますが、メンバーの関心や今後の実習の展開によっては、複数の異なる場所も考えます。実際、私の調査実習でどのようなことをするのかを知りたい人は、過去の「社会調査実習(津島班)報告書」を参考にしてください。

教員名： 舟橋 健太

#### 授業の進め方

夏期に行う実地調査を中心にすえて、前期では、調査に赴くための心構えから方法の確認、ならびに、主に文献に基づく調査地に関する事前調査を行います。そこでは、グループに分かれて、調査に関わる諸側面を分担して調べ、報告会を行い、全体で共有します。のち、具体的な調査計画を立案し、実地調査に備えます。調査の後（後期）は、グループ毎に調査で得た各種データの整理に努め、事後の報告会を行います。のち、全体で、調査成果を一冊の報告書にまとめ上げていく作業に努めることになります。

上記の進め方をすることから、受講生は、原則として、課外活動を含むすべての授業への参加が強く求められます。また、実際の調査の場だけでなく、調査前後の取り組むべき課題も多くなります。さらに、深い問題関心を持ち、柔軟な視角をもって物事にあたることができる人、かつ、調査で関係をもつことになる方々に、真摯な敬意と謙虚さをもって接することができる人が求められます。主体的・積極的な参加がなくては成り立ちませんので、その旨、十分に留意ください。

#### 調査テーマ、調査実習地、分析方法など

調査テーマならびに調査実習地は、受講生のみなさんの問題関心に基づいて、決定したいと考えます。ただ、「他者」と関わる（換言すれば、「異文化」と接する）機会となることを企図し、翻って、受講生のみなさんが自らを深く省みることができるような機会になればと考えています。調査方法は、参与観察とインタビューが軸となります。事前調査から実地調査における各種データの収集、調査後のデータの整理と報告書の作成という一連の作業を行います。

教員名： 吉田 竜司

#### 授業の進め方

- ①調査地域を決定し、その地域の歴史・文化・社会についてゼミ発表形式で理解を深める。
- ②各自の問題関心を出し合い、KJ法によって関心領域をまとめた上で、いくつかの調査グループを編成する。
- ③調査グループ単位で調査対象に関する既存文献・資料のレビューをおこなう。
- ④夏休み期間中に3泊4日のフィールド調査をおこなう（必要であれば追加調査もおこなう）。
- ⑤調査で得た情報を集約・分析する（インタビューデータの文字起こしが中心となる）。
- ⑥調査で得た情報をもとに調査報告書を作成する。

#### 調査テーマ、調査実習地、分析方法など

この実習クラスの調査テーマは「祭り」です。ただし、祭りに参加することが目的ではありません。祭りに参加するチャンスがあるかもしれませんが、ひょっとすると（開催時期の関係で）祭りそのものを見学することがないかもしれません。伝統的で盛大な祭りをとりあげ、その祭りを支え、維持してきた地域社会の祭り運営体制や、祭り継承に当たった課題や工夫、また地域社会にとっての祭りの魅力や意義について、祭り関係者へのインタビュー調査をおこないます。したがって、“祭りに焦点を当てた地域社会調査”だと思ってください。

調査地域は、山口県山口市と愛媛県西条市のいずれかを考えています。山口市であれば、中世からの伝統を有する「山口祇園祭」を、西条市であれば日本一の台数の山車が出る「西条まつり」が調査対象となります。調査手法は、必須の質問項目だけを定めた緩やかなインフォーマルインタビューが中心となります。また、分析手法は、インタビューデータに基づくエスのフラフィー的な手法が主となります。

ゼミ発表形式での報告は、通常の演習よりも回数が多く、とくにフィールド調査後のインタビューデータの文字起こし作業や、その後の報告書執筆では相当な作業量が要求されます。また、夏休みのフィールド調査に加えて、その前後に追加調査もおこなうことが予想されますので、いずれにおいても他のスケジュールよりもこちらを優先させることのできる人を希望します。

教員名： 脇田 健一

#### **授業の進め方**

滋賀県高島市をフィールドに、社会調査実習を実施します。

高島市では、2021年に「全国棚田サミット」が開催される予定になっています。高島市では、そのイベントを1つの契機にしながら、棚田だけでなく高島市内に点在する地域資源を相補的につなぎ合わせながら、地域を内発的に活性化していく方策を検討しようとしています。来年度は、そのような高島市での地域づくりの取り組みに関連させながら実習を実施していきます。

前期は、資料収集や文献調査、調査テーマの焦点化、調査のフレームワーク等に関して検討を行います。グループ分けを行い、夏期休暇中の調査合宿ではインタビュー調査を実施します。後期は、前期の文献調査で得た資料や夏期休暇中のインタビュー調査のデータを整理するとともに、報告書の執筆を行います。

高島市内の関係者の皆さんとのと交流をしながら、フィールドワークの醍醐味を味わってもらいたいと思います。ただし、安易な気持ちで履修はしないでください。地域で調査をさせていただくことの責任を感じつつ、誠実に最後まで実習をやり遂げる覚悟のある方のみ履修をしてください。地域の皆さんや他の履修者に迷惑をかける行為については、厳しく指導します。

#### **調査テーマ、調査実習地、分析方法など**

調査では、高島市内で地域づくりの活動に取り組んでおられる団体、あるいはこれから取り組もうとされている団体にインタビューを実施します。調査にあたっては、高島市役所からご支援をいただけることになっています。市役所の職員の方達からもインタビューを行います。